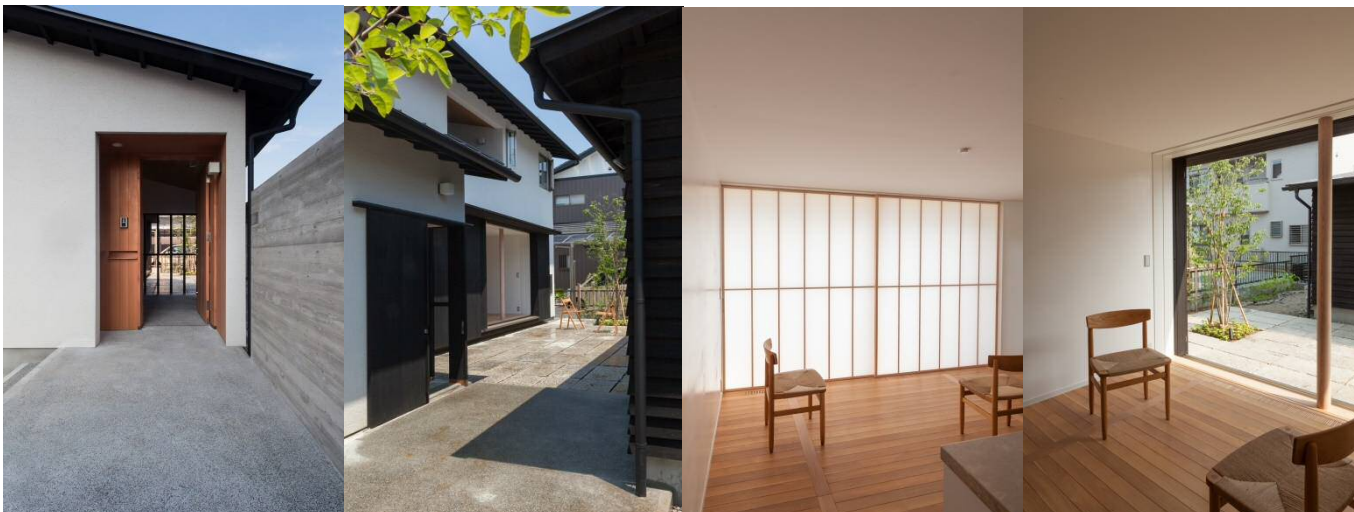


中庭のある住宅

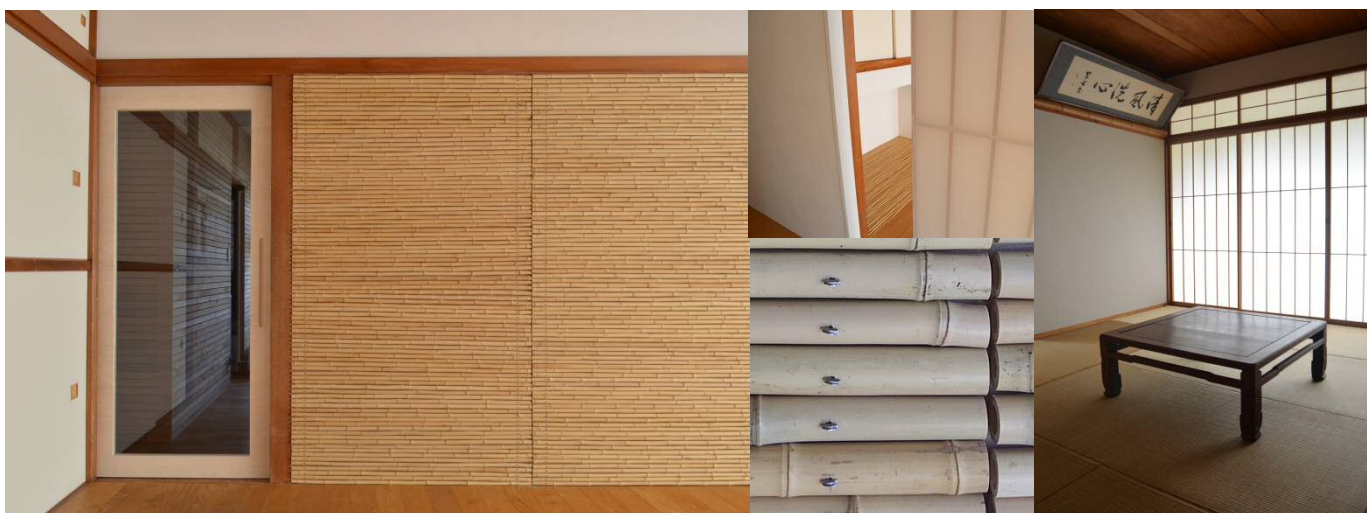


この住宅は2階建ての母屋と平屋の離れを相對して配置し、その間にできる4m×9mの空間を中庭としています。離れをあえて南側に建てることで敷地の南側の2階建ての住宅を隠しています。外からは中庭があることは分かりづらい建物の配置にしてあり、玄関のドアを開けて初めて古御影石を敷き詰めた中庭があることが分かります。玄関は4畳半程度の土間で多目的に使用でき、動線の要となっています。中庭に面したダイニングは障子を壁に引き込むと、中庭と一体となって開放的でありながら、離れによって囲まれているので落ち着いた空間となりっています。

いわきの住宅

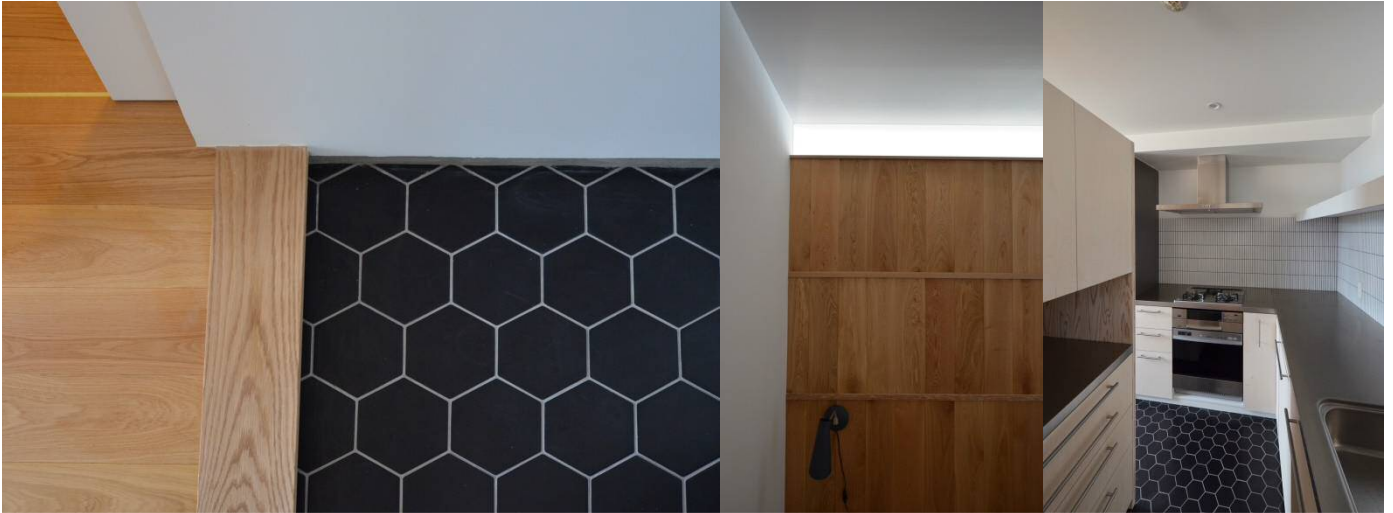


玄関ロビーと和室を隔てている大判の障子には和紙を棧の両面（太鼓張り）に張っています。棧は和紙と同色の白を塗ることで棧の存在感を消しています。玄関ロビーの壁にはこの空間に合わせて京都の漆芸家 東端唯さんに製作してもらった漆のパネルを掛けています。



正面の壁は竹を釘で横張りにしています。鉄釘の丸い頭を叩いて半分に折り、正面からは細い四角にすることで軽快さを出しています。釘は錆びることで時間と共に竹と馴染むようになります。仏間の畳は縁なし、手織りの畳表は大分県の国東地方でだけ作られている「七島藪（しちとうい）」です。耐久性があり粗い質感が魅力です。

マンションのリノベーション



寝室の壁には檜のムク板を張っています。三分割し同材の出目地材を入れることで空間に変化をつけています。また短い材を使うことでコストダウンを図っています。玄関とキッチンの床には大きさとテクスチャーの違う同色の六角形のタイルを張ることで、統一感を出しています。

個人宅のリノベーション



ダイニング・キッチン脇の横長の窓に大きな枠を廻し幅3m奥行70cmのベンチも設えています。枠を廻すことでここが一つの囲まれた空間になることを意図しています。また障子はすべて壁に引き込むことができ、川沿いの素晴らしい風景を取り込むことができます。小上がりは寝室を兼ね、床と天井は吉野杉の赤身材を張っています。

店舗



この建物は川沿いの強い風が吹く地域にあります。落とし板で窓をすべて塞ぐことで台風時は暴風雨に備え、通常は営業終了後の防犯になります。落とし板は一人でも手軽に出し入れができ、季節・天候に応じて空間の変化を楽しむことができます。お客さんにパン工場の作業を見ってもらうためにレジカウンター脇に木製の小窓を設けました。小窓を開けば店舗には焼きたてのパンの香りが漂ってきます。窓が回転しお客さんの前面に来ることでコロナの飛沫防止を兼ねています。